

イオラニ、 プナホウへの道



【その121】幼稚園受験準備

9月7日の模擬テスト

新学期が始まり数週間が経ちました。期待に胸を膨らませた新入生たちも、そろそろそれぞれの学校の雰囲気にも慣れてきた頃でしょう。私立学校ではすでに2016年度の入試要綱が発表され、私立校受験を検討されている受験生やそのご家族にとっては、慌しい季節の始まりでもあります。しかし心配することはありません。長年、塾長としてたくさんの子どもたちを難関と言われるプナホウ校、イオラニ校に合格させてきた経験から言えることは、まずは自分の実力をきちんと把握し、学校が求めている合格点との隔たりを知ることが重要であるということです。

その手がかりとして、塾では定期的に模擬試験（合否判定テスト）を行っています。次回、9月7日（祝日）に、幼稚園受験生は午前8時から2時間、そしてSSAT、SAT受験生は11時から3時間、行います。塾生だけではなく、塾生以外の方にも門戸を開くことで、より本番に近い緊張感を持って模擬試験に臨むことができます。

幼稚園試験の内容

プナホウ校もイオラニ校も共に、1対1のCognitive Testと、クラスルームのような雰囲気の中で子どもを観察するグループテストを実施してきました。試験問題は、児童心理学者が作成しています。その細かな内容に関しては、両校ともかん口令を敷いているので、部外者には知る由もありませんが、どんな生徒が合格するかを長年見つけてくると、そこに一つの法則が見えてきます。その法則に基づいて、模擬試験を組み立て、どの得点になれば合格するかまで分かるようになります。また、前述したように、今の時点でどこに弱点があるか、どこを強化すれば良いかなども手に取るように分かっています。

模擬テスト作成の理由

そもそも模擬試験を実施することになったきっかけは、ある優秀な塾生が補欠になったことにありました。父兄がイオラニ校の入試担当者とな談したところ、個人テストでは受験生最高点を獲得しているが、グループテストの得点が芳しくなく、補欠になったとのこと

でした。グループの中では、非常に消極的な態度に終始していたそう、大勢の知らない受験生たちに囲まれ、1対1で聞かれれば難なく答えられた問題にも答えられず、実力を発揮できなかったようです。

この苦い経験から、塾では本番さながらの模擬試験をスタートさせました。その結果は実に感動的なもので、すぐ目に見える結果として表れてきました。

模擬試験の効果の例

例えばプナホウ校に合格したある生徒の父兄が、合格通知を受け取った後、あえて合格になった理由を聞きにプナホウ校を訪れたことにありました。そこで言われたことは、次のようなことでした。

「お嬢さんがグループテストを受けている時、隣の子が彼女に話しかけたと記録してあります。その時、お嬢さんは、その子に対して『後で話そう』と、きっぱり断り、試験官の質問に集中していました。その態度が高く評価されました」。

このことは、模擬試験の中で繰り返し繰り返し訓練したことでした。どんなに成績の優秀な受験生でも、試験官の話への集中力を欠いてしまうとマインスの印象を与えてしまうだけでなく、一度しかされない質問を聞き逃し、正しく答えられないこともあります。



ドクター高橋俊明
心理学博士
ドクター高橋塾長

宮崎県出身。東京教育大理学部生物学科卒業、東京教育大教育学部心理学科で修士号取得、ハワイ大心理学部で博士号取得。1968年に川崎市、69年に文京区、そして77年にホノルルに塾を設立。2015年は、塾からカメハメハ校に2人、ハナハウオリ校に3人、イオラニ校に35人、プナホウ校に70人合格。
Web: www.juku-in-hawaii.com ☎808-949-3366

模擬試験の重要性は、全年を通して言えることですが、キンダーを受験されるお子さまたちにも、まだ早いかなどご心配なさらずに、ぜひ経験させてあげていただきたいと思っています。

かつて、イオラニ校アドミッシン・オフィスのモナコ氏は、「文字を習うことも大切だが、祖父母との触れ合いも大切だ」とHawaii Business Magazineのインタビューに答えています。ただいたずらに、子どもにとって重要なプレイタイムを奪うのではなく、より効果的に試験に備える必要があります。そのためにも模擬試験を活用していただきたいと考えています。写真は、今年合格した塾生です。

